

## 切磋琢磨Ⅲ

R2.7.22 第15号

## 雨天続きの中で・・・ 体育館を開放してリフレッシュ！

## 梅雨空の中で

先々週から、毎日雨が続き、外で遊べない子どもたちの姿を見て、先週は長放課に体育館を開放することにしました。みんな、「待ってました！」とばかりに、元気よく体育館に入ってきました。ボール遊びやフラフープ遊び。鬼ごっこをする中学年。ドッジボール対抗をする高学年。バスケットのフリースロー練習も見られました。

みんな、汗びしょりかいて、とても気持ちよさそうでした。少しは、リフレッシュできたかな？運動委員会の子たちが、ネットの準備や片付けをしてくれたり、声かけをしてくれたりして、けがもなく体育館開放を行うことができました。運動委員の皆さん、ありがとうございました。遊び終わった後の手洗いもしっかり行いました。木・金曜日は晴れて運動場で遊ぶことができ、先週は体を動かすチャンスが増えてリフレッシュできましたね。

まもなく梅雨明け。外で思いっきり遊べるといいですね！梅雨明けが待ち遠しい今日この頃です。

## 「はったつしょうがい」って何？

今でこそ、「発達障害」という言葉が、よく聞かれるようになってきましたが、まだまだ一般的にはこの障害についてはよく理解されていないのが現状です。文科省のHPには発達障害の定義がこのように記されています。

**自閉症・アスペルガー症候群・その他の広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの。**

**通常学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒は、6. 5%。(平成24年度統計による)**

統計上では、約450人いる本校児童のうち30人、学級にして2～3人は発達障害の可能性があるということです。そして、この障害が正しく理解されていないがゆえに、子どもは悩み、偏見や差別、トラブル等が生まれています。

本校では、特別支援学級担任が、子どもたち対象に「発達障害」について話をしています。今回は主任の大場教諭が4年生対象に行いました。

★みんなとちがっていることで、「変だ」「おかしい」と思われていることも、視点を変えれば自分たちの方が「変だ」という考えもある。

米津玄師さんが発達障害だったという話からはじまり、映像で「三輪車」や「宇宙人との出会い」を例として挙げながら、とてもわかりやすく説明してくれました。4年学年通信には、この話を聞いて感じたことをいくつか紹介しています。

わたしとちがう人は変ってかんがえるんじゃないくて「この人のことをもう少し知ってみよう。わかるようになりたい」と思ったら、変という言葉がなくなるんじゃないかと思いました。



この子の感想のように、相手の子のことをもっと知ってみようという思いが、心豊かな子へとつながっていくでしょう。

大人ほど「障害」という言葉に敏感になってしまいがちですが、誰でもこのような特性は少なからず持ち合わせているのではないのでしょうか。私自身もチェックリストから「ADHD」の特徴に合致するところが数々あることがわかりました。たまたま、今まで社会的な活動にそんなに支障がなかったもので、この特性に気づかずにいたのではないのかと。

困り感のある子どもに寄り添い、将来自分のよさを生かした生き方ができるように、その特性と向き合い、導いていくことも大切なキャリア教育です。我々教員も、児童理解と適切な指導支援を行えるように、この夏に校内研修で「特別支援教育」について勉強をします。

## コロナ対応 いまこそ意識を高く

昨日、愛知県で新たに53名の感染者が出たと報道発表がありました。豊橋市でも3名。潜伏期間を考えると、まだまだ陽性者が増えることが懸念されます。今こそ、個々が意識を高くもち、落ち着いて2学期以降の授業や行事ができる状況を作ることが必要です。この4連休の不要不急の外出はお控えいただきますよう、お願いします。

【道路上での遊具について】校区自治会よりお願い

道路上での遊具(スケートボード等)は、危険行為につながります。遊ぶ場所は公園内等に限定してください。